

## 身近にあった水との関係

天理市立福住中学校 二年

水口 来美

（何を書こうかな。）水の作文の内容を考えていて、ふと私の苗字は水に関係があるということに気づきました。とても気になったので、祖父に聞いてみました。

「うちの苗字が水に関係あるみたいやけど。どういう意味なん？」

すると祖父は、こう話してくれました。

「お爺ちゃんたちが子供のころ、水道水なんてなかったんや。井戸から水を汲んで使ってたんや。でも、冬になったら、どこの家も井戸が凍ってもうてな。でも水口家は、水が凍らんかったんやで。」

どうして凍らなかつたんだろう。不思議に思った私は、また質問しました。

「何で凍らなかつたん？」

私はこう尋ねながらも、一応自分なりに考えてみました。（凍らないということは、水が

流動していたからではないのかな。でも、真冬でも水が凍らずに流れるものなのかな。）祖父は私の疑問にこう答えてくれました。

「地下水が流れててな。その水をパイプで井戸に引つ張ってたんや。それで、うちは水が年中汲めたんやで。」

私は、興味津々でした。一生懸命話を聞く私に、祖父は話し続けます。

「しかもな、うちの水は特別美味しかったんや。よそは水が濁っていたり、赤かったりしてたんや。でもうちは、きれいで美味しい水に恵まれてた。だから水口っていう苗字になつてん。」

そんなことがあったから、この苗字になったのか。水が凍らなかつたこと、美味しかったこと、きれいだつたこと。初めてこの話を聞いて、驚くことがいっぱいでした。

「今でも、井戸の水はお風呂に使ったり、食器洗ったりするのに使ってるんやで。」  
と祖父は、最後に付け足してくれました。  
私の興味はまだまだ続きます。

「他にも水に関係する話ない？」

「ずっと大昔の氷室のことはどうや？氷室は氷やけど、ここで作った氷を夏まで保存してたから。」

私の家の近くには、復元された氷室がありますが、氷を保存しておく場所だった、ということしか知りません。ちゃんと知りたかったので、調べました。

池で作った氷を夏でも涼しい山に穴を掘り、茅などで覆い、夏まで蓄えていたそうです。冷凍庫もなかった時代の保管場所でした。夏になると宮中では、その氷をお酒に入れて飲んでいたそうです。

今なら氷がなければ買えばいいし、水を入れて冷凍庫に入れて氷を作ることができます。祖父は、

「今は、なんでも便利になったな。冷凍庫のない昔は氷を保存する氷室を役人が命がけで守ってたからな。」

と言いました。

そして、氷室の見張りをする人が、うっかりして氷をとかしてしまったりしたら、重い罪になったと教えてもらいました。

「水も氷も高級な物やった。今なんか、蛇口をひねるだけで、水が出てくるやろ。」

と祖父は笑ってそう言いました。

「美味しい水がなかったころに、美味しい水があったところが水口。ええ場所やろ？」

山奥の田舎で、虫もたくさんいていやだと思っていた自分の地域でしたが、この話を聞いて少しだけ好きになりました。

苗字が水に関係していたのには驚きです。

苗字の由来を知り、苗字も好きになりました。私はこの苗字を大切にし、昔から守られてきた美しい美味しい水を受け継いでいきたいと思えます。

氷室では、今でも氷祭りをしていきます。昔から続いている氷祭り、氷室跡を見に来る観光客が少しずつ増えていきます。命をかけて水を守った人がいたことを知ってほしいです。